

がん医療 最新体制紹介

徳大でフォーラム 310人学ぶ



聴講者の質問に答える医師ら
徳島市の徳島大大塚講堂

県民がんフォーラム（県がん診療連携協議会など主催、徳島大学病院がん診療

連携センター、徳島新聞社共催）が29日、徳島市の徳島大蔵本キャンパス大塚講堂で開かれた。医師ら6人が最新の医療提供体制などについて話し、約310人が理解を深めた。

協議会の森根裕二会長は、3月に閣議決定された第4期がん対策推進基本計画に基づき、国や県が患者の相談体制など支援を強化していると説明した。自分の病気について正しい情報を得ることが大切だとして「徳島がん対策センターの

ホームページを活用してほしい」と呼び掛けた。

徳島大学病院歯科麻酔科・痛みセンターの高田香医師は、がんによる痛みの原因や部位によって鎮痛薬、医療用麻薬、神経を抑制・遮断する神経ブロック療法を組み合わせる手法を紹介。「患者がどう過ごしたいか、という目標に合わせて治療が生活の質改善につながる」と話した。

聴講者から事前に募った質問に答えるコーナーもあった。かさまつ在宅クリニックの笠松哲司院長は、自宅で長く過ごすしながら治療する方法について「がん拠点病院と開業医などの2人の主治医を持ち、介護者が疲れないように短期の入院や施設利用をすると良い」と助言した。

（佐藤亮）